

平成30年度 学校評価について (平成30年12月実施)

南足柄市立向田小学校

春暖の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、12月6日付け文書にてお願いいたしましたアンケート調査ですが、多くの皆様にご回答をいただき誠に有り難うございました。15の項目すべてについて、児童、保護者、職員がそれぞれの立場から評価した結果を次のようにまとめました。

なお、この結果につきましては、学校運営連携協議会で検討された結果をふまえて、来年度の教育活動に生かし、一層の充実に向けて職員一丸となって取り組みますので、引き続きご協力をお願いいたします。

★表の見方

1~3年	117	63%	37	20%	19	10%	13	7%
	83%		-6%		17%		+6%	

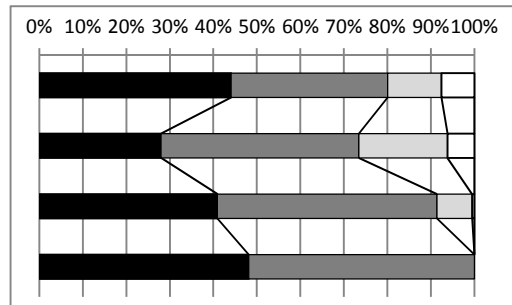
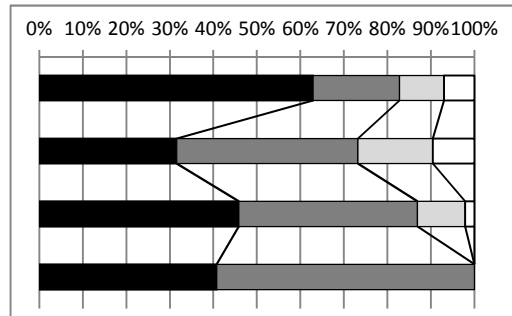
肯定率(A+B%)

平成29年度との比較

★小数点以下を表示してないので、合計が100になってない場合があります。

1 全般

設問①	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
「学校を楽しみにしている。」	1~3年	117	63%	37	20%	19	10%	13	7%
		83%		-6%		17%		+6%	
	4~6年	66	32%	87	42%	36	17%	20	10%
		73%		-5%		27%		+5%	
	保護者	172	46%	154	41%	41	11%	8	2%
		87%		-4%		13%		+4%	
	教師	11	41%	16	59%	0	0%	0	0%
		100%		0%		0%		0%	
設問②	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
「よいところや努力が認められている。」	1~3年	82	44%	67	36%	23	12%	14	8%
		80%		-1%		20%		+1%	
	4~6年	59	28%	96	45%	43	20%	13	6%
		73%		-6%		27%		+6%	
	保護者	158	41%	195	51%	31	8%	2	1%
		91%		-1%		9%		+1%	
	教師	13	48%	14	52%	0	0%	0	0%
		100%		0%		0%		0%	



全般についての考察

①「学校を楽しみにしている。」について

学年が上がるにつれ、学校へ来ることを楽しみに感じる子が減ってきています。

学校としては、日々の授業の中で授業規律を見直し、子どもたちが「わかる」「認められる」「満足する」授業づくりに向けて努力していきます。

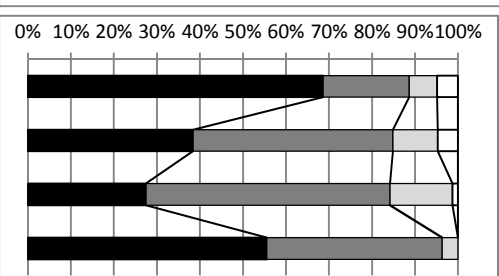
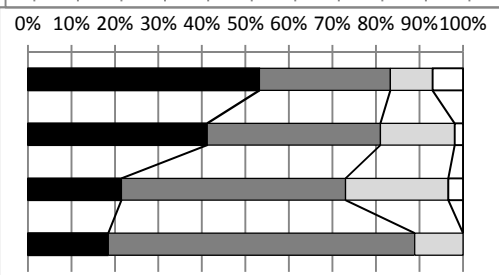
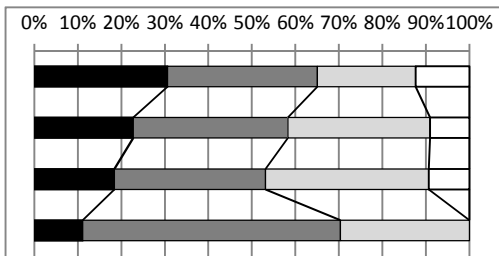
②「よいところや努力が認められている。」について

教師は、児童に対して「いけないものはいけない」という毅然とした態度で接することを前提として、一人ひとりの努力をしっかりと認めていくことで、子どもが自信や充実感を感じられるようにしていきます。

自信や充実感が高まることで、学校を楽しみにしている児童が増えていくと考えられます。

2 確かな学力の向上

設問③	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
「自分から勉強している。」	1～3年	57	31%	64	34%	42	23%	23	12%
			65%		-7%		35%		+7%
	4～6年	48	23%	75	36%	69	33%	19	9%
			58%		-12%		42%		+12%
	保護者	71	18%	134	35%	145	38%	36	9%
			53%		-10%		47%		+10%
	教師	3	11%	16	59%	8	30%	0	0%
			70%		-11%		30%		+11%
設問④	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
学校での勉強がわかる	1～3年	99	53%	56	30%	18	10%	13	7%
			83%		+3%		17%		-3%
	4～6年	87	41%	84	40%	36	17%	4	2%
			81%		-5%		19%		+5%
	保護者	83	22%	199	52%	91	24%	13	3%
			73%		-2%		27%		+2%
	教師	5	19%	19	70%	3	11%	0	0%
			89%		-11%		11%		+11%
設問⑤	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
教え方の工夫やわかりやすい指導～授業のユニバーサルデザイン化	1～3年	127	69%	37	20%	12	6%	9	5%
			89%		-1%		11%		+1%
	4～6年	81	38%	98	46%	22	10%	10	5%
			85%		-4%		15%		+4%
	保護者	106	27%	219	57%	56	15%	5	1%
			84%		-5%		16%		+5%
	教師	15	56%	11	41%	1	4%	0	0%
			96%		0%		4%		0%



確かな学力の向上についての考察

③ 「自分から勉強している。」について

今年度は昨年度に比べ、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が約10%増加しています。これは、与えられたものに対する勉強への意欲はあるものの、「自ら進んで勉強しよう」という気持ちが少ないためと考えられます。

見通しを持たせることや、めあての明確化、振り返りを行うこと、導入を工夫することなど、児童がより主体的な学びに向かっていけるように授業改善をしていきます。

また、家庭学習では「eライブラリ」の活用を促進するなど、家庭での学び方や学習の環境づくりを、保護者との連携を基につくっていかねばと考えています。

④ 「わかる、できる喜びが味わえる授業の実践」について

意欲的に学習を進めている児童と、つまづきを感じている児童の二極化がみられます。学校では、「分からないことを分からないままにしない」ための手立てを想定していくとともに、先を見通した授業研究を実施していきます。また、業務内容を見直しながら、授業改善にあてる時間確保に努めていきます。

⑤ 「授業のユニバーサルデザイン化（UD化）」について

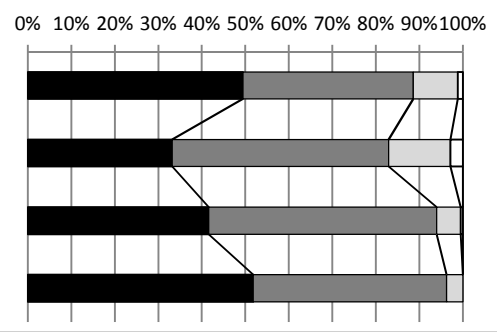
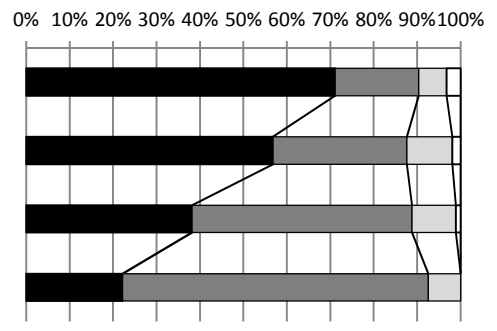
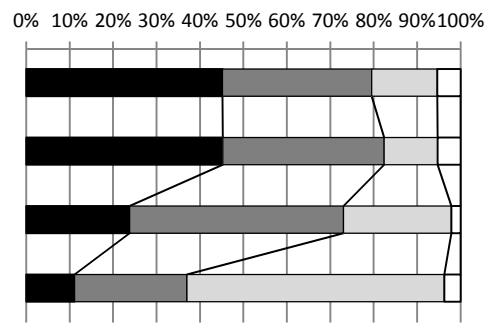
ユニバーサルデザインの中の「視覚化」を意識した授業づくりは積極的に行っているため、今後も継続していきます。また、どの児童にとっても、より理解しやすい授業を目指していきます。

※ 授業のユニバーサルデザイン化とは？

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や性別、障害の有無等を問わず、「誰もが使いやすい環境づくり」という意味で、「ユニバーサルデザイン」という用語が多くの分野で使われています。教育の分野でも、「授業のユニバーサルデザイン化」という考え方が広まってきています。授業のユニバーサルデザイン化とは、施設・設備のユニバーサルデザイン化にとどまらず、学習目標や学習方法、教材・教具、評価等、さまざまな面で特別支援教育の視点を取り入れ、どの子どもも、より理解しやすい授業の工夫をめざしていく授業づくりのことです。また、通常の学級には、発達障害のある児童・生徒を含め、授業に対して様々な困難さ(バリア)を感じている児童・生徒が在籍しています。授業を進める上で、発達障害のある児童・生徒には「必要」であり、どの児童・生徒にも「あると便利」な工夫を増やしていくことを大切にいく授業づくりでもあります。

3 豊かな心の育成

設問⑥	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
自分からあいさつをしている	1～3年	84	45%	64	34%	28	15%	10	5%
		80%		+2%		20%		-2%	
	4～6年	95	45%	78	37%	26	12%	11	5%
		82%		-4%		18%		+4%	
	保護者	92	24%	190	49%	96	25%	8	2%
		73%		-2%		27%		+2%	
教師	3	11%	7	26%	16	59%	1	4%	
	37%		-15%		63%		+15%		
設問⑦	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
清掃活動の充実	1～3年	133	71%	36	19%	12	6%	6	3%
		90%		+5%		10%		-5%	
	4～6年	120	57%	65	31%	22	10%	4	2%
		88%		-10%		12%		+10%	
	保護者	147	38%	195	51%	39	10%	4	1%
		89%		+3%		11%		-3%	
教師	6	22%	19	70%	2	7%	0	0%	
	93%		+11%		7%		-11%		
設問⑧	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
規範意識の向上 ～やくそくを守って生活している	1～3年	87	49%	69	39%	18	10%	2	1%
		89%		+1%		11%		-1%	
	4～6年	70	33%	105	50%	30	14%	6	3%
		83%		-9%		17%		+9%	
	保護者	159	42%	200	52%	21	5%	2	1%
		94%		+0%		6%		-0%	
教師	14	52%	12	44%	1	4%	0	0%	
	96%		-0%		4%		+0%		



豊かな心の育成についての考察

⑥「自分からあいさつをしている」について

多くの児童が、挨拶ができていて感じているようです。しかし、普段の学校生活を見ていると、まだまだ課題が残ると感じます。自分から進んで挨拶しようとする児童は、あまり多くはありません。学校・家庭・地域で連携し、継続して指導を行っていく必要があると思います。形式的な挨拶に留まらず、挨拶の良さを実感させたり、挨拶の意義を考えさせたりすることで、進んで気持ちの良い挨拶をしていこうとする児童を育てていきたいと思っています。

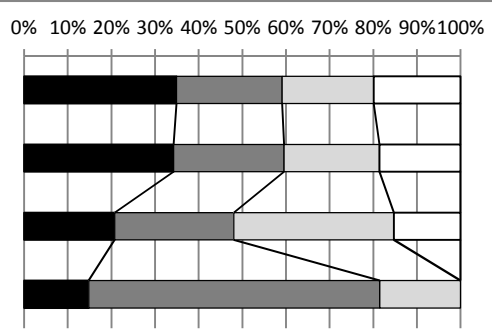
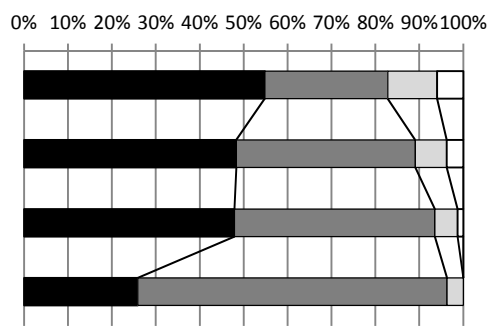
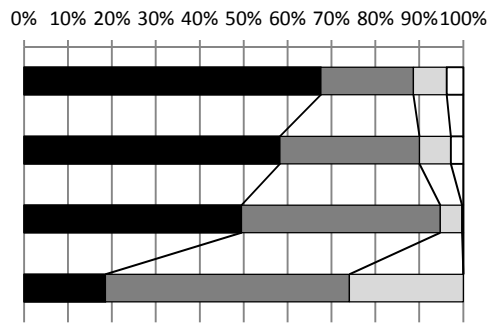
⑦「清掃活動の充実」について

清掃活動については、児童・保護者・教師のいずれも高い肯定率です。今年度は、縦割り清掃班が発足してから、事前に各班の担当が6年生に対して各清掃場所の掃除の仕方について指導しました。それから縦割り清掃が始まったので、6年生がリーダーシップを取りながら全員で清掃活動を行うようになったことが良かったのではないかと思います。さらに多くの児童が一生懸命に掃除に取り組めるようにするために、学級担任が学年に応じた指導を行い、一人ひとりがめあてをもって清掃場所に向かわせるようにしていきたいと考えます。

⑧「規範意識の向上」について

ほとんどの児童が規範意識をもって生活していると感じているようですが、廊下の歩き方・時間を守る・言葉遣い・持ち物等、「向田っ子のやくそく」を守れない児童も見られます。「なぜこの約束があるのか」だけでなく、「約束だから、守るべきである」という意識をもてるように指導していくことも必要だと感じます。教師は、「向田っ子のやくそく」を指導の基準にして、全児童に対して同じ指導をしていきたいと思っています。そして、自分の価値観で行動するのではなく、全児童が同じ基準で行動するようにしていき、誰もが安全で楽しい学校生活を送れるようにしていきたいと思っています。児童が約束を守って学校生活を送れているかを、定期的に確認をしたいと思っています。

設問⑨	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
命を大切に する心、いじ めを許さない 心の育成	1～3年	125	68%	39	21%	14	8%	7	4%
		89%		-11%		11%		+11%	
	4～6年	123	58%	67	32%	15	7%	6	3%
		90%		+90%		10%		+10%	
	保護者	191	49%	175	45%	19	5%	1	0%
		95%		+95%		5%		+5%	
	教師	5	19%	15	56%	7	26%	0	0%
		74%		+74%		26%		+26%	
設問⑩	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
学年活動・異 学年活動・委 員会活動の 充実 ～なかよく生活	1～3年	102	55%	52	28%	21	11%	11	6%
		83%		-1%		17%		+1%	
	4～6年	102	48%	86	41%	15	7%	8	4%
		89%		+10%		11%		-10%	
	保護者	185	48%	176	46%	20	5%	5	1%
		94%		+6%		6%		-6%	
	教師	7	26%	19	70%	1	4%	0	0%
		96%		-4%		4%		+4%	
設問⑪	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
読書活動の 推進 ～読書の習慣 化	1～3年	65	35%	45	24%	39	21%	37	20%
		59%		-37%		41%		+37%	
	4～6年	72	34%	53	25%	46	22%	39	19%
		60%		+60%		40%		+40%	
	保護者	80	21%	105	27%	141	37%	59	15%
		48%		+48%		52%		+52%	
	教師	4	15%	18	67%	5	19%	0	0%
		81%		+81%		19%		+19%	



豊かな心の育成についての考察

⑨「命を大切にする心、いじめを許さない心の育成」について

高い肯定率ですが、児童は、「命」の捉えを、「安全」という意識で考えているのではないかと考えられます。「人権」や「思いやり」「友達を大切にする」という意識で「命」を考えられていないと推測されます。動植物を大切にするだけでなく、友達や仲間を大切にするという気持ちを育てていく必要があります。

自分の思いを最優先にした言動が多く見られるため、相手の気持ちや思いを考えた言動を心がけられるように指導していきたいとします。また、誰もが「いじめは絶対に許さない」という強い気持ちを持てるように、個別指導と全体指導を合わせ、規律や人権の意識を学級で共有できるようにし、集団意識が良い方に機能するようにしていきたいと考えます。

⑩「学年活動・異学年活動・委員会活動の充実」について

とても高い肯定率です。今年度は、授業や集会など、教師主導の活動だけでなく、児童会を中心とした活動も多く実践されたからだと考えます。一人ひとりが目的意識をもってそれぞれの活動に臨めるようにすることで、さらに充実した活動ができると考えます。

⑪「読書活動の推進」について

読書活動については、昨年度と同様に肯定率は低いです。読書を好む児童は、日常的に読書をしています。活字に慣れず、本を手にとることが習慣化されていない児童も多いようです。学校では、読書タイムを設けたり、図書委員会を中心に読書週間の設けたりしています。家庭においても、お子さんと一緒に読書をする時間を設けるなど、読書に親しむ環境づくりにご協力いただきたいとします。

4 たくましい心と体の育成

設問⑫	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
健康・体力づくりの推進 ～運動をしたり、体を動かしたり	1～3年	108 58% 76%	34 18% -14%	28 15% 24%	16 9% +14%	
	4～6年	97 44% 79%	76 35% +2%	32 15% 21%	13 6% -2%	
	保護者	168 44% 83%	151 39% +1%	52 13% 17%	15 4% -1%	
	教師	12 44% 93%	13 48% -4%	2 7% 7%	0 0% +4%	
	設問⑬	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
	交通安全教育、防災教育、防犯教育の充実	1～3年	123 65% 88%	44 23% -4%	18 9% 12%	5 3% +4%
4～6年		115 55% 86%	67 32% -2%	21 10% 14%	8 4% +2%	
保護者		124 32% 91%	227 59% -0%	34 9% 9%	1 0% +0%	
教師		13 48% 100%	14 52% 0%	0 0% 0%	0 0% 0%	

たくましい心と体の育成

⑫「健康・体力づくりの推進」について

低学年の運動への意欲が、昨年度に比べマイナスになっています。最近では、キラキラタイム(時間走)への参加の様子でも、低学年の見学者が目立ちました。体育的な行事や集会への事前指導によって、意欲化を図っていきます。また、年度当初に行った異学年遊び等を定期的に設定するなど、遊びの機会を増やしていきます。さらに体育館の開放を通じた体力づくりも前向きに検討していきます。なお、時間走の時期や運動会学習の時期は、給食の残量が少なく、運動への意欲が食育にもつながっているようです。

⑬「交通安全教育、防災教育、防犯教育の充実」について

教師の肯定率は高いのですが、地域や保護者の皆様からは安全についてのご意見をいただくこともあります。1年生の下校指導を半年近く行っていますが、今年度は登下校中の怪我が度々ありました。今後も朝会や集会、帰りの放送等で呼びかけをし、安全に対する意識を高めていきます。防災教育や防犯教育を含め、安全教育、安全指導は本校の重点指導として今後も続けていきます。

5 その他

設問⑭	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
家庭、地域と連携した教育活動の充実	1～3年	73 42% 79%	64 37% -5%	28 16% 21%	8 5% +5%	
	4～6年	47 22% 75%	110 52% -4%	41 20% 25%	12 6% +4%	
	保護者	81 21% 81%	231 60% -6%	68 18% 19%	6 2% +6%	
	教師	8 30% 96%	18 67% -4%	1 4% 4%	0 0% +4%	
	設問⑮	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
	快適な環境で学習できるような、教育環境の整備	保護者	65 17% 73%	218 56% +1%	78 20% 27%	25 6% -1%
教師		12 44% 96%	14 52% +10%	1 4% 4%	0 0% -10%	

その他の考察

⑭「家庭、地域と連携した教育活動の充実」について

スクールコーディネーターのおかげで、地域の方との協力体制がよく取れています。地域の方も積極的に学校に関わってくださり、たいへん効果があるので、今後も続けていきます。

また、学校と保護者が同じ視点で子どもたちの成長を見守ったり支えたりしていけるよう、連携を深めていきたいです。

そのためにも、担任の考えを保護者に理解してもらう場として、懇談会、教育相談をより充実させていきたいと思います。

さらに、学校から配付する文書も情報過多にならないように内容を精選し、より保護者にわかりやすい内容で伝えていきます。

⑮「教育環境の整備」について

「カコぶの会」の環境ボランティアや修繕ボランティアの協力など、人の手による環境整備の取り組みに感謝申し上げます。金銭的に課題になっていたエアコンの設置も次年度は見通しが立ちました。次年度の学校公開日には間に合う予定です。トイレの臭いは消臭剤で改善を図っています。プロジェクターや書画カメラ、タブレットはたいへん効果があり、今後も大切に活用していきます。

来年度の教育活動について

平成 29 年 3 月 31 日に学習指導要領が改訂され、平成 30・31 年度は平成 32 年度（元号は変わります）の新学習指導要領の全面実施に向けた移行期間になっています。

新学習指導要領の全面実施後は、外国語の授業時間が 3・4 年生の外国語活動で年間 35 時間、5・6 年生の外国語で年間 70 時間となり、現行の学習指導要領よりも年間 35 時間の授業時間が増加します。

本校では、増加する授業時間の確保に向けて、今年度から、水・木・金の朝の時間帯に 15 分を 1 モジュールとしたモジュール授業を設定し、週あたり 1 時間の授業時間を保障しているところですが、以下の理由によって時数確保が難しくなっています。

【変更理由】

- ・ 4 月の学級はじめから 5 月末にかけて、大切な行事が続く中、落ち着いた雰囲気でも新学年をスタートし、学習に集中できる状況になっているか検討しました。
- ・ 今年度の外国語活動は、3・4 年生は 15 時間、5・6 年生は 50 時間実施しました。いずれも昨年度より 15 時間の増加となりました。移行期間 1 年目にあたり、この 15 時間分は総合的な学習の時間をあてていました。来年度は、総合的な学習の時間をあてません。したがって来年度は、今年度よりも授業時間が 15 時間増加します。
- ・ 学校公開での「さわやかコンサート」へ向けての指導や当日の実施について、時間数の確保が難しい中で実践してきました。
- ・ 学級閉鎖による、授業時数減も予想されます。（今年度は 7 学級が閉鎖）
- ・ 10 連休等の休日の増加の中、授業時数の確保に努める必要があります。

来年度は、新学習指導要領の全面実施に向けた移行期間の最終年になります。

そこで、学習内容の充実と授業時数の保障について、本校教職員で次のように確認しましたので、お知らせいたします。

○家庭訪問の見直し

- ・ 家庭訪問から、家庭位置確認に変更します。
- ・ 家庭訪問期間（6 日間：4 時間放課）を縮小し、家庭位置確認期間（2 日間：特別日課 5 時間放課）に変更します。
- ・ 家庭訪問で行われていた面談を確保するため、夏季休業中の教育相談は全家庭を対象にします。

○学習発表の機会の見直し

- ・ 保護者の皆様に学習の様子を発表する場を見直します。
- ・ さわやかコンサートを来年度廃止し、それに代わる機会として、各学年の学習内容から保護者の皆様に発表するものを設定し、授業参観や学校公開に合わせて公開します。

以上の、内容についてご理解と協力をお願いいたします。